

殆ど發達しなかつた根本の理由がある。將來の歴史地理學は地理學徒の手によるものでなくてはならぬ。そして本來の歴史地理に還し考古學者、歴史學者の協力の下に進むべきである。普通の場合地理學徒は歴史的知識が貧弱であるから、假令その地域の自然的思索は或程度達成し得たとしても、その上に發展した歴史的事實の研究なくしては、不可能である。ここに歴史學と地理學とは事の兩輪的密接關係が存立してゐる事は言ふ迄もない。歴史地理學が歴史學、地理學の兩方面よりの研究が不可欠なる以上、兩方面の研究對象が必要である。然るに兩學を兼ねる學者は寡い。故に兩者が協力して地域の歴史地理を研究する事が緊要である。舊來我國の學問はあまりにも各個々に分離し過ぎてゐた爲めに、この種の協同調査による業績が寡く、甲論乙駁時に推測の泥濘的なものもあつた。平城京の條坊並にその附近の條里研究が驚くべき進歩の跡を示したものは結局、關野貞博士の精密なる科學的調査と、喜田貞吉博士の歴史的檢討との論考切實の賜である。この二者の中一を缺いてゐたならば平城京條坊及附近の條里研究は恐らく偉大なる業績は遺されなかつたであらう。

天坊氏の難波入江を始め大阪附近の變遷史の研究は實に協同調査の實驗臺にも當る所である。更に各方面の協力を得られ科學的調査を行ひ、地人兩方面より深く研究を進められ以て模範的歴史地理の確立に邁進せられん事を切に望む次第である。(大八洲出版株式會社刊定價百二十圓)

叢 報

例 會

史學研究會では今後例會において共通のテーマをとりあげて共同研究をし、また例會は京大のみならず、各地各大學に移動的に開催することゝなつた。まず第一、二回は「近代性の問題」をとりあげて西洋史、國史、東洋史、地理學の各方面より論じ、第三回には考古學の新しい問題をとりにあげた。

第一回 昭和廿三年一月二十六日京大陳列館にて

「近代性の問題」 (西洋史)

前川貞次 郎氏
石田 一良氏

第二回 二月九日同所にて

「東洋に於ける近代主に就いて」 (國史)

北村 敬直氏
水津 一朗氏

第三回 五月十六日同所にて

「近世と未開地」 (比較史的考察)

「邪馬台國問題」

——考古學上より見たる上代日本と大陸との關係——
三品彰英、樋口隆康、岡崎敬三氏
尙五月十二日午後一時より大谷大學にて左の如き例會を行つた。
「宗教改革運動について」 井上 智勇氏
「鎌倉時代における教界革新について」 藤島 達朗氏

次回は龍谷大學にて開催する豫定である。

昭和廿一年度大會(十一月十六・十七日)

第一日 京大文學部第一教室にて講演會

一、法隆寺の塔と金堂

淺野 清氏

一、民族構造の變遷

白井 二荷氏

昭和廿二年三月講演會

三月三十日(土)午後一時より京大文學部第一教室にて開催

一、孔子とその時代

貝塚 茂樹氏

一、明代の精神

吉川幸次郎氏

昭和廿二年度大會

十月十七日午後一時半より文學部第一教室にて開催。

一、東方史の講述とその展開

田村 實造氏

一、藝術の近代性

井島 勉氏

石橋名譽教授の逝去

京都帝國大學名譽教授文學博士石橋五郎先生は昭和二十一年四月十九日逝去せられた。行年七十一才。先生は明治三十四年東京帝國大學西洋史學科を卒業後神戸高等商業學校教授とし地理學を擔當、ついで明治四十年京都帝國大學文科大學創立に伴ひ史學科に地理學講座を新設せ設せらるるや小川琢治教授の下に兼官の助教授として來任、同年十月より人文地理學を開講されるに至つた。當時人文地理學は全く未踏の學問であつたが、先生はラツツェルの人類地理學等を基礎として苦心の結果遂に人文地理學の體系を樹立せられたものである。

讀者へのこゝば

本誌は創刊以來、史學研究會の會誌として、會員相互のたゆみない庇護と援助により、わが國の學界に代表的地位を保持しつつ、ひきつゞき發刊してまゐりました。ただし戰時中、經營面、その他の困難な諸事情から、本研究會の活動も、やや低調となつたことは否めません。

戰後、ほうはいとしておこつた文化復興の氣運は、本研究會會員諸士をも蹶起せしめ、その結果このたび評議員協議の上、創立當初の建前にかへり、京都大學文學部史學科を中心としつつも、ひろく全國同學の士の研究會として再發足することに一決しました。

その線にをうため、本會としては従前のように、年一回秋期の大會のほか、毎月例會を移動的に開催し、それには國史・東洋史・西洋史・地理・考古學の各部間に、なるべく共通する題目を選んで研究發表し、活潑な討議を行ひ、もつてわれわれお互の啓蒙と、よりひろい視野に立つ研鑽に資したいと考へてゐます。そして、その結實を本誌上に、つぎつぎと發表して、ひろく會員諸士からの自由な投稿と、活潑な意見や批判とをえて、同じ學にたづさはるものの横の連絡の役をも果したいと存じます。

どうかわれわれの意のあるところに御賛同の上同學の方々をも勸誘御紹介下さるようお願いいたします。會費は年額六拾圓であります。ただし本誌代は當分の間發行の都度定めて別にお收め願ふことに致しますが會員に對しては、確實に入手できるよう便宜をはかりたいと思ひます。

史學研究會大會

日時 十一月十四日(日曜日) 午前十時ヨリ
場所 京都市東山區東福寺

午前十時—十二時寺寶展觀
(市電東大路線東福寺驛下車東入)

(文書・漢籍・什物その他)

午後一時ヨリ公開講演會

演題 ヘロドトスの地理 京都大學 織田 武雄君
的 세계に就いて 助教授

未 定 東京大學 寶月 圭吾君
助教授

今度本會の組織を別項のように變更しましたので、本大會において會員による役員の選舉を行いたいと思ひます。